

環境まちづくりをめざす

春

2005

第23号

2005年5月15日発行

あじえんだ

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。

「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて環境と共生できるまちの姿を描いていきます。



京 みやこ

のアジェンダ21フォーラム
ニュースレター



巻頭特集

醍醐コミュニティバス、発車1年

グラフ

京都議定書発効の日

アジェンダ NOW

「七条武田クリニック」が医療法人として初めてKESに登録されました

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

平岡 俊一さん

未来に残したい...
京の知恵

神も仏もある

最近よく耳にする「しまつ」、

「足るを知る」、

それに人気の「もったいない」と

いう言葉がすべて

長い信仰の場から

生まれてきたことを考えると、

これからの暮らしや社会にとって、

何が大切かが

少し見えてきたように思います。

写真 山口 洋典

*詳しくは6ページをご覧ください



醍醐寺

桜の時期には臨時バスを運行
(醍醐寺前バス停にて)



長明方丈石

巻頭特集



DAIGO
Community
Bus 醍醐コミュニティバス

醍醐コミュニティ

発車1年、予想以上に順調な滑り出しを見せた醍醐コミュニティバス。その運営主体である「醍醐地域にコミュニティバスをまた同副会長の吉村睦子氏には、醍醐コミュニティバスを利用した地域での取組のアイデアをお聞きました。

地域の要望に応え、地域を盛り立てる醍醐コミュニティバスに

醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会 事務局長 岩井 義男 氏

2004年2月16日の発車から1年が経ちました。その間、醍醐寺の^{こだいりき}ごだりきさんや、桜の季節には、1日の利用者数600人を超えるという成績を残しました。2年目に差し掛かり、これまで以上の利用促進活動が必要だと考えています。

醍醐寺の桜のシーズンにあたる4月1日から10日までの10日間、市民の会のメンバーが午前、午後に分かれて8人ずつ地下鉄改札口からコミュニティバスのバス停までの誘導、チラシの配布、乗客整理などをしました。この期間中、醍醐寺方面の利用者だけで1日平均4000人を超えましたが、臨時バスを運行するなど、市民の会としても昨年の経験を活かした動きができた結果、大き

な混乱もなく観光客輸送を行うことができました。

1年間コミュニティバスの運営に携わってみて、年間の流れはだいたい把握できました。今後、その蓄積された知識や情報を活かしながら、今後どのような形で進めていくのが良いか、市民の会の中で話し合っているところです。

2年目以降、取り組んでいきたいことは主に二つあります。ひとつは京都市の敬老乗車証を醍醐コミュニティバスでも利用できるようにして、高齢者の利便性を図ることです。そのために京都市への働きかけの努力をしていきます。もうひとつは日曜・祝日の運行本数を増やすことです。できれば平日と同じダイヤにし

たいですが、コスト面の問題もあります。地域の行事などは、休みの日に開かれることが多いので、できるだけそこで利用していただきやすいダイヤにしていきたいと考えています。

この1年間、今のところ利用状況も順調です。ただ、採算性だけを考えているのではない「地域の必要から生まれたバス」という認識を皆さんに持っていただき、地元の方々への支援の呼びかけを引き続き行っていきます。

2年目は本当の意味で「飛躍の年」になることでしょう。地域の皆さんの要望にお応えすることで、醍醐コミュニティバスを、そして醍醐地域を大いに盛り立てていきたいと思っています。

日野方界寺



天穂日命神社



観光客の誘導にあたる市民の会のメンバー
(地下鉄醍醐駅前バス停にて)



ティバス、発車 1 年

走らせる市民の会」(以下、「市民の会」) 事務局長の岩井義男氏には、この 1 年を振り返っての感想と今後の展望について、

コミュニティバスでできる、あんなこと、こんなこと

醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会 副会長 吉村 睦子 氏

昨年の夏休みには、「醍醐エコまち探検」を行いました。このイベントは、伏見区の「まちづくり支援事業」助成を受けて 40 人近い方々に参加していただきました。地域の子供たちに醍醐コミュニティバスの 1 号路線、2 号路線に乗り、沿線にあるお店で環境のことを考えた商品を扱っているところを訪ねてもらいました。そこで話をうかがって、マップに書いていくということを行ってもらい、調査結果を冊子にまとめました。

今年はその続きとして、3 号路線、4 号路線を使つての「醍醐エコまち探検」を実施します。10 月の小学校の秋休みにあわせて行い、やはり同じように冊子にまとめる予定です。

また今年は、コミュニティバスに乗って醍醐の竹やぶ調査をしたいと思っています。醍醐地域には、あちこちに竹やぶがあるのですが、地域の人はあまり関心を示さないし、手入れもされていません。そこで、5 月には学区の催しとして、竹やぶで竹を切らせてもらって、竹とんぼや竹馬を作ったり、ご飯を炊いたりして「竹ってどんなもんやろ?」ということを知ってもらうイベントを行います。その後、竹やぶ調査、竹炭焼きなど、「竹」をテーマにした催しを 3 年シリーズでしようと計画中です。

それから秋には去年に引き続き「歴史探訪」も計画しています。去年はずいしんいん随心院、おぐりすおぐりす灸、小栗栖八

幡宮、あけちやぶ明智藪などを巡りましたが、今年はどこにしようか、現在考えています。

このように、地域の子供たちを対象に、コミュニティバスに乗って、自分たちのまち・醍醐のことを知ってもらう催しを企画しています。

醍醐コミュニティバスホームページ

<http://www16.ocn.ne.jp/~daigobus/>

京都議定書発効の日



京都議定書発効記念パレード

主催：気候ネットワーク

後援：京のアジェンダ 21 フォーラム



午後1時半、京都市役所前を出発したパレードは、河原町通を南下、四条河原町から四条通を東へ進み、午後2時半過ぎに目的地の八坂神社に到着。雨の中のパレードとなりましたが、沿道で京都議定書の発効をアピールしました。

このページの写真提供：気候ネットワーク

2005年2月16日、COP3（国連気候変動枠組条約第3回締約国会議）開催から7年余りを経て、この日ようやく京都議定書が発効しました。今回は、「京都議定書誕生の地・京都」のその日をカメラが追いました。

なお、当日のレポートは、ブログ「京都議定書発効^{さつき}旬記」でもご覧いただけます。

<http://d.hatena.ne.jp/ma21f/20050216>

NGO 集会「進もう京都議定書とともに」

主催：気候ネットワーク

共催：環境省



午後5時から、京都議定書誕生の場である国立京都国際会館で、NGO 集会「進もう京都議定書とともに」が開催されました。聖母被昇天学院ハンドベルクワイヤーによるオープニング演奏で始まり、京都議定書発効までの道のりをスライドショーで振り返り、リレートークで祝いました。



京都議定書発効記念行事

主催：環境省・京都府・京都市



午後7時半からは、同じ京都国際会館で京都議定書記念行事が開催されました。大木浩元環境大臣、ヨーケ・ウォラーハンター国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局長、2004年ノーベル平和賞受賞者でもあるワンガリ・マータイケニア環境副大臣らによる基調講演、パネルディスカッション、世界を結んでのリレーメッセージで、温暖化防止に向けての決意を新たにしました。

やっています！
暮らしの工夫

エコな洗濯・食器洗い

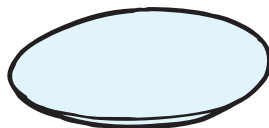
洗濯やったら合成洗剤よりも粉石けん。溶けにくいけど、洗面器にお湯を入れて、かき混ぜてから洗濯機に入れるだけやし、何にも手間もかからへんのやけど。落ちにくいワイシャツの襟や袖口の汚れなんかは洗濯機に放り込んだだけでは落ちひん。そこでちょっと水に濡らしてから固形石けんを汚れているところにこすり付けておけばきれいになるよ。一つ買っておけば、長いこと使えるしね。確かに粉石けんはすすぎをようけせんならんから、水道代はちょっとはかかるかもわからへんけど、水を汚さへんのは確かやね。でも、やっぱり手間がかかる割には汚れが落ちひんから石けんがあんまり普及しないのと違うかな。そこらをもうちっとメーカーが考えてくれたらええのやけど。

ふきんなんかは、女性会で地域の子供たちと一緒に廃食用油で作った石けんを洗います。口に入れるものに使うものやし、何が入っているかわかるもののほうが安心やしね。

それから、食器はアクリルたわしで洗うんやけど、私はそれにちょっと牛乳をつけるの。そうすると油汚れなんかもしきれいに落ちるよ。やっとおみ。顔洗うたら顔もしきれいになるかも(笑)。

環境にやさしいことは、ちょっとした工夫でできるんやけど、毎日のことやから積み重なったら大きいわな。

(特活) 伏水サポートネットワーク 吉村 睦子(談)



未来に残したい……
京の知恵

其の甘参
神も仏もある

暖房完備でもやはり寒く厳しい冬が去り、風が優しくなってくると、誰もがふと「有り難うございます」と心の中で思ってしまう。それは誰に向かつての感謝なのでしょう。多分普段は意識していない、なにか人智を超えた大きなものに向かつてのおれで、かつて我々はそれを祈り、あるいは信仰と呼びました。そのことを思いださせる現代では数少ない機会、それが春です。

本年2月に京都議定書は「正式」に発効し、温室効果ガスの削減目標達成に本気で向かわなければならぬにもかかわらず、世間では何故か大型車の売れ行きが延びているそうです。「私一人が努力しても……。でも……」といった我慢や義務感ではなく、あらゆる人が自然に身につけられ、暮らしに美しさや救いをもたらす存在が今、エコロジーを進める上では是非とも必要です。そしてそれはどうも我々が忘れてきている「信仰」というものの中にあるそうです。

近代西欧思想は、神・次に人間・そして自然の順といわれ、戦後はわが国もそれにならいで、そのためか「地球に優しい」という言葉にはどこか不遜な響きがあります。

本来東洋では、神・そして自然・次に人間であったといえます。最近よく耳にする「しまつ」、「足るを知る」、それに人気の「もったいない」という言葉がすべて長い信仰の場から生まれてきたことを考えると、これからの暮らしや社会にとって何が大切かが少し見えてきたように思います。





「七条武田クリニック」が医療法人として 初めて KES に登録されました

KES は、3 月末現在、全国で 590 組織をこえる登録件数になり、ますます様々な組織・企業が環境保全に取り組む上で貢献をしています。

この度、医療機関として初めて「七条武田クリニック」が KES ステップ 1 に取り組まれ、登録の運びになりました。

特に今年は「京都議定書」発効の記念すべき年ですが、この機会に医療機関として初めて取り組まれたことは大変意義のあることでしょう。

七条武田クリニックでは、院長の強いリーダーシップのもと、現場の看護師さん、事務員さんなどすべての方が前向きに自分の立場で熱心に取り組んでおられます。

特に、現場でのインタビューで看護師長さんが待ち構えておられて自分たちの取組についていきいきと答えてくださったのが印象的でした。

またテーマの一つに、地域貢献として「周辺清掃」を取り上げて、定期的に行っておられますが、これが地域で関心を持たれて、積極的に参加をなさる人が増えてきているそうです。一つの活動が大きく輪

を広げつつあるということは素晴らしいことです。

引き続いて、親元である「京都武田病院」本体へ活動を広げる方向で現在展開しておられます。

「環境のみならず、KES の仕組みを経営手法の中で活用していきたい」という院長のお話も心強いかがりです。

今後、私達が期待してきた「KES を医療部門でも広げていく」ということについてリーダー的な役割を果たしていただけると大いに楽しみにしています。

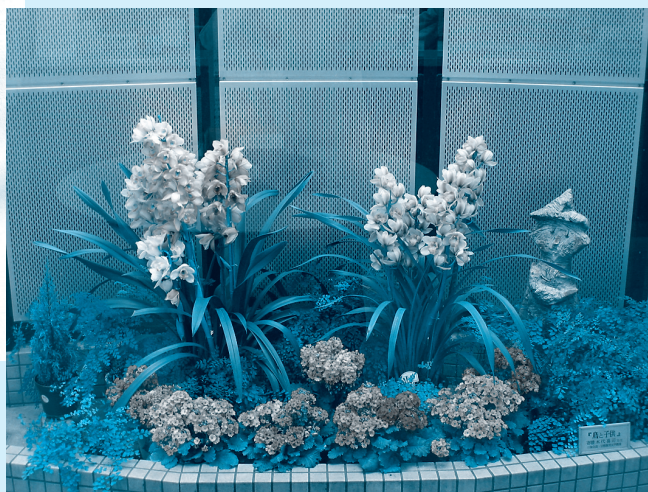
また、今年は京都市の支援で昨年に引き続いて旅館・ホテルへの KES の展開が一層進みます。京都のホテルや旅館が次々に KES の仕組みを構築し、継続的に活動されるさまは、京都を訪れる観光客によって全国に伝わっていくことでしょう。これもまた大変楽しみで、今年も一段と地球のため環境保全にがんばらなくてはと思っています。

(KES 認証事業部 副事業部長 荒川 佳夫)



周辺清掃にあたる

病院エントランスには花壇が



※『あじえんだ 2005 冬 第 22 号』に誤りがありました。以下のように訂正いたします。

7 ページ 駐輪ポイントカード「さいくるん」実験

元（環境にやさしい交通体系の創出ワーキンググループ コーディネーター）

訂正後（環境にやさしい交通体系の創出ワーキンググループ コーディネーター 山田章博）

京・ゼロエミッション in 新風館

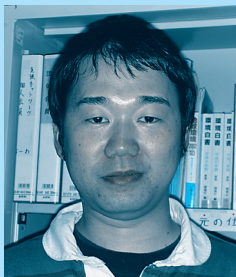
写真キャプション

元「当日の様子。売り手と買い手の会話が至る所で見られた」

訂正後「会場となった新風館の近所の方も参加しての寄せ植え教室の様子」

ひと
まち
きたる

平岡 俊一さん



待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。

立命館大学大学院社会学研究科博士
後期課程3回生。当フォーラム
地球温暖化防止条例協働提案プロ
ジェクトチームの事務局メンバー
として活躍。気候ネットワークで
のボランティアも6年目になる。

●温暖化対策、地域での取組を志す

平岡さんは2000年に「国際会議での場でのNGOの役割」を卒論のテーマとして取り上げようとしていた。その折りに、オランダ・ハーグ市で開催されたCOP6（国連気候変動枠組条約第6回締約国会議）に、気候ネットワークの一員として参加する機会を得た。初めての国際会議では、熱のこもった議論が交わされていて勉強になったが、一方で、実際の対策が置き去りにされているように感じた。「机上の空論で議論していても限界がある。市民の生活に近い地域レベルでの活動が重要なのでは？」と思い始めたという。

帰国後さっそく気候ネットワーク内に「地域温暖化防止研究会」を立ち上げる準備をはじめた。市民主体、地域での広がり、といった地域での温暖化対策の取組のあり方について研究が始まった。研究会のまとめ役であるコーディネーターに就任し、まずは、地域の温暖化対策先進事例集*の作成に取り組んだ。それまで市民・地域の取組に注目してまとめられた事例集がなかったため、発行後はずいぶん好評を得られ、手ごたえを感じたようだ。

●市民参加で条例策定を

そんなとき、京都市が温暖化対策に特化した条例をつくるという情報が入った。市民参加型の仕組みをつくれるチャンス、と研究会に呼びかけたところ、2003年6月には、地球温暖化防止条例協働提案プロジェクトチーム（以下PJ）が当フォーラム内に立ち上がることとなり、市民主体の提案をまとめる役として参加することになった。

PJと並行して、フォーラムの各ワーキンググループを中心とするテーマ部会（ライフスタイル・住宅、エネルギー、交通、企業、観光）でも会議が行われた。その会議は5ヶ月に及び、のべ30回近くを数えた。「そこで文章のとりまとめや議事録・レジュメ作成など全体的な事務作業を担いました。どの部会も協働提案素案作成を目指し、それまでの取組実績をもとにした熱い議論が繰り広げられ「すごい」と思いました」

協働提案の大枠を完成させ、京都市の環境審議会温暖化対策条例検討部会に対して「協働提案の基本的考え方」を提出したのが9月末。10月には協働提案の素案を完成させ発表

した。その後、さらに広く多くの市民の意見を集めるため、「地球温暖化防止条例協働提案オープンフォーラム・京都」を開催した。

●条例施行後、これからの取組

PJの動きなどを受けて、審議会検討部会でも議論が盛り上がり、結局条例の制定は京都市の当初予定より遅れることになった。「2003年度内の条例案可決を目指す京都市のスケジュールに合わせ、時間なくバタバタまとめた形だったので、こんなことであればもう少し余裕を持って提案をつくりあげたかった。でも、作成した素案そのものには満足しています。研究者の評価も高く、市の条例案も制定される過程でPJの意見に沿った変化をしていった。提案を出すことで条例をより良いものにしていこうという目的は達せられたと思う。頑張ったかいがありました」

ただ、課題も残った。提案を出すところまではエネルギーを注いだが、次の目標をうまく定められなかった。条例に京都市の温暖化対策におけるフォーラムの役割、位置付けは入れられず、PJが目指した市とのパートナーシップ関係を築く部分はできなかったと感じている。

「PJは条例施行にともなって解散したが、これからも、フォーラムを中心として行政と市民との関係をどうつくっていくかという課題に取り組んでいきたい。市民が政策に関わっていける仕組みに関わっていきたくて考えています」条例はできたが、行政と市民のパートナーシップはまだまだ。それを推進していきたいと目を輝かせる。「フォーラムは市民参加型の仕組みづくりに向けて大きな役割を果たしていけるはず。これからももっともっと。他から『お手本にしたい』と言われるような」

（取材・文〔写真も〕千葉有紀子）

※地域からの大きな可能性～地域の温暖化対策先進事例集～

2001年12月、気候ネットワーク地域温暖化防止研究会・自然エネルギー普及研究会発行。

その後の調査研究の結果さらに増えた事例を紹介する冊子を今年度作成予定とのこと。

お問合せは気候ネットワーク（TEL 075-254-1011、Email kikonet@jca.apc.org）まで。

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1) 個人会員 1口 (2) 団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

◇ 郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

◇ 銀行振込口座：UFJ銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2005年春（第23号）

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局地球環境政策部地球温暖化対策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：滋野浩毅・小山直美・竹村光世・千葉有紀子・北村龍太

デザイン・レイアウト：藤本芳一

※このニュースレターは風力発電による自然エネルギーを使用して、古紙100%の再生紙に大豆油インキで印刷しています。

